

増田 修治 (ますだ しゅうじ)先生 プロフィール

- 略 歴 1958年 埼玉県川越市生まれ
1980年 埼玉大学教育学部卒業
1980年～2008年 小学校教諭として埼玉県朝霞市内の小学校に勤務。「ユーモア詩」に取り組み、子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、楽しい学級づくり、保護者とのコミュニケーションづくりを行う。2001年には、NHK「スタジオパーク」で「ユーモア詩」が紹介される。同年に「児童詩教育賞」を受賞。2002年には、NHK「にんげんドキュメント 詩が躍る教室」で学級の様子や取り組み・詩の授業などが放映され反響をよぶ。2003年には、テレビ朝日「徹子の部屋」に出演
2008年～ 2008年3月末で小学校教諭を退職。同年4月から白梅学園大学准教授
2012年～ 白梅学園大学子ども学部子ども学科教授
2015年 NHK「ニュース深読み」、NHK「あさイチ」、TBS「ホンマでっかTV」等出演
2017年4月～ 白梅学園大学 教職教育・研究センター長
- 専 門 臨床教育学、教師教育論、教育実践論、学級経営
- 著 書 「話を聞いてよ、お父さん！比べないでね、お母さん！」(主婦の友社、2001年)
「笑って伸ばす子どもの力」(主婦の友社、2002年)
「ユーモア詩がクラスを変えた」(ルック、2003年)
「母親幻想から抜け出す」(子どもの未来社、2005年)
「ユーモア詩がクラスを変えた2」(ルック、2006年)
「ことばで伝え合う学級づくり」(教育開発研究所、2007年)
「子どもが育つ言葉かけ」(ひとなる書房、2009年)
「笑う子育て実例集」(カンゼン、2009年)
「よくわかる教育原理」(ミネルヴァ書房、2011年)
「ホンネが響き合う教室」(ミネルヴァ書房、2013年)
「先生！今日の授業楽しかった！」(日本標準、2015年)
- 所属学会 日本カリキュラム学会、日本安全教育学会、日本臨床教育学会、アメリカ教育学会、日本教師教育学会、日本作文の会 など

叱るよりも気持ちを聞く

子どもは時に「バカ」「死んじやえ」など、乱暴な言葉や汚い言葉を使うことがある。頭ごなしに叱ったり注意したりするよりも、子どもに「なぜその言葉を使ったのか」を尋ね、話に耳を傾けることが大切だ。



乱暴な言葉、汚い言葉

同園によると、子どもは他の保育所から移ってきた時、仲の良い友達が引越してしまったりなど、環境が変わって不安を感じると、乱暴な言葉や汚い言葉を使うことが多い。そんな子どもに対しては「ごはんをきれいに食べられだね」「〇〇が上手」など、積極的に声をかけるといい。園長の菊地真琴さんは「肯定的な言葉をかけることで子どもも前向きになれる、自信を持てます」と話す。

子育て支援に取り組みNPO法人ハートフルコミュニケーション（横浜市）が開く講座には、子どもの言葉遣いに悩む親が時々参加する。代表理事の菅原裕子さんは「3、4歳ぐらいの場合、意味も分からずに面白がって使う場合が多い。大人が驚いて『だめよー』などと言うと、喜んで繰り返すことがあるんです。聞き流すなど大人が無反応だとつまらないと感じ、使わなくなるという。『実は親のまねをしているケースがある。大人も言葉遣いを意識して』と助言する。

■乱暴な言葉、汚い言葉を直すポイント

- ・言われた相手の気持ちを考えるよう伝える
- ・どうしてその言葉を使ったのか話を聞き、他の言い方がないか、一緒に考える
- ・大人の反応を見て面白がっている場合もある。過剰に反応しない
- ・大人自身も同じような言葉を使っていないか、気をつける

(増田さん、菅原さん、菊地さんの話を基に作成)

のも、言葉が少なく感情をうまく表現できないからという。「人を傷つけるような言葉を使った時は、どんなトラブルが起き、なぜそんな言い方をしたのか、子どもの話を聞き、気持ちを受け止めることが大事」と増田さんは話す。

例えば子どもが「死んじやえ」と言った場合、「本当に死んでいいの？」と聞く。子どもが「おもちゃを取られたから。取られたくなかった」と言えは、「その気持ちを伝えるため、ほかの言い方を一緒に考えよう」と応じる。増田さんは「言葉を増やし、自分の思いを相手に伝えられるようになるには、乱暴な言葉や汚い言葉は徐々に使わなくなる」と話している。

「『バカ』と言われたらどんな気持ちになるかな」東京都江戸川区の船堀中央保育園の年長児クラス。4月下旬、帰宅前に開く会で、担任保育士の伊藤拓磨さんが約20人に語りかけた。子どもたちは「嫌な気持ちになるよ」「悲しくなる」などと口々に答えた。



同園では、言われてうれしい言葉を「ほかほか言葉」、悲しくなる言葉を「ちくちく言葉」と呼ぶ。話す能力が発達するこの年代の子どもたちには、言葉の持つ力を理解してもらうための。

文部科学省の調査によると、学校内外で暴力行為に及ぶ子どもは年々増えている。特に小学校低学年で自立し、2015年度は1年生で1085人と、5年前の約3.8倍だった。白梅学園大学教授（臨床教育学）の増田修治さんは「低学年の子どもは言葉で自分の気持ちを伝えるトレ

こどもの詩

ごきげんまつすぐはげんき
ごきげんななめは
ちよっとおいてる
ごきげん下は
本とごにかんかんおこして
きょうのわたしは
ごきげんまつすべ

足立楓

(千葉県柏市・柏第一小2年)

いつもまつすぐだといいわね。ごきげんが逆立ちしたりしませんように。(平田俊子)